

第1章 計画の策定にあたって

(1) 地域福祉活動計画を策定する目的

「地域福祉活動計画」とは、子どもから高齢者まで、障害のある人もない人も、誰もが住み慣れた地域の中で自分らしく生き生きと暮らしていくためのまちづくり計画です。

そのためには、住民の誰もが社会から孤立せず、それぞれの役割を持ち、支え合いながら、生活における楽しみや生きがいを見出し、安心して自立した生活が送れるような環境づくりを目標にします。

住民が地域で日常生活を営む中では、個人や家族だけでは解決できない生活課題がしばしば生じます。なかには、様々な要因が絡み合って複合化した課題や、公的なサービスには当てはまらないが生活する上で困っていることなど、既存の福祉制度やサービスだけでは対応できない複雑・多様化した社会問題である場合も少なくありません。このような課題には、行政による福祉サービスの充実だけではその解決は難しく、また住民の相互扶助だけでも難しくなっています。

そのため、行政と地域住民と関係団体などが一体となり協力し、その課題解決に向けた取り組みが必要とされています。

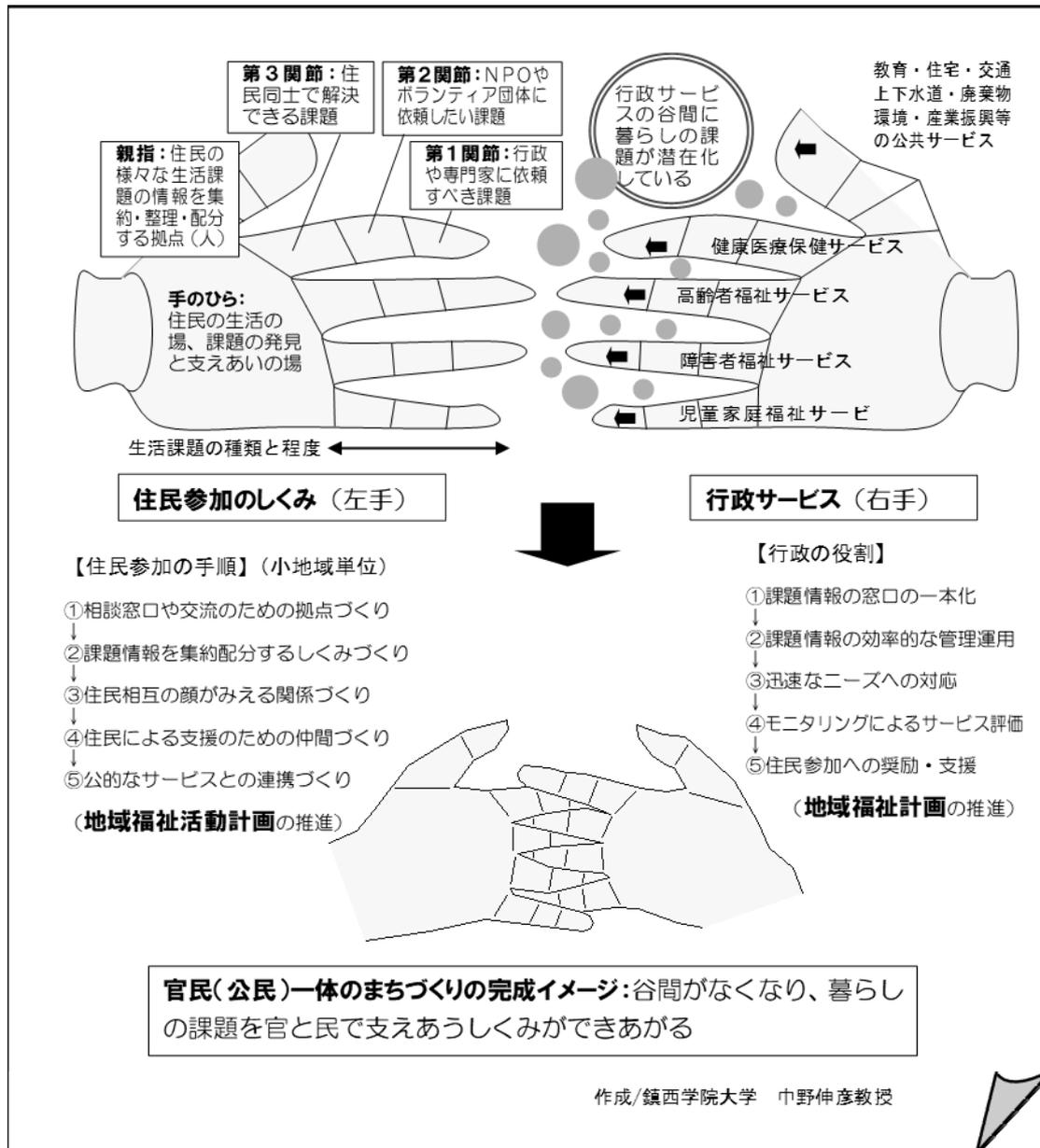
諫早市では、令和4年4月に第4次の「地域福祉計画」を策定し、諫早市における地域福祉のあり方や行政が取り組むこと、地域が取り組む方向性を示しました。

これに伴い、私たちの「地域福祉活動計画」では、地域住民をはじめ、社会福祉施設や企業等地域の様々な人や団体・機関が、地域の生活課題を共有し、お互いできることを生かしながら、支え合い、助け合う仕組みを構築するための取り組みを具体的に、実践的に示すものです。

本計画は、諫早市社会福祉協議会（以下、「市社協」という）が中心となり、市内全域にまたがる20の地区（校区）社会福祉協議会（以下、「地区社協」という）が一体となって、地域住民やその関係者と相互に協力し策定しました。

なかでも、住民の皆さんがお住いの地域に関わる計画である「地区社協・地域福祉活動計画」と連動し、まちづくりの全体とその関連を示すことで、それぞれの役割を理解し、計画的にその取り組みを進めるためでもあります。

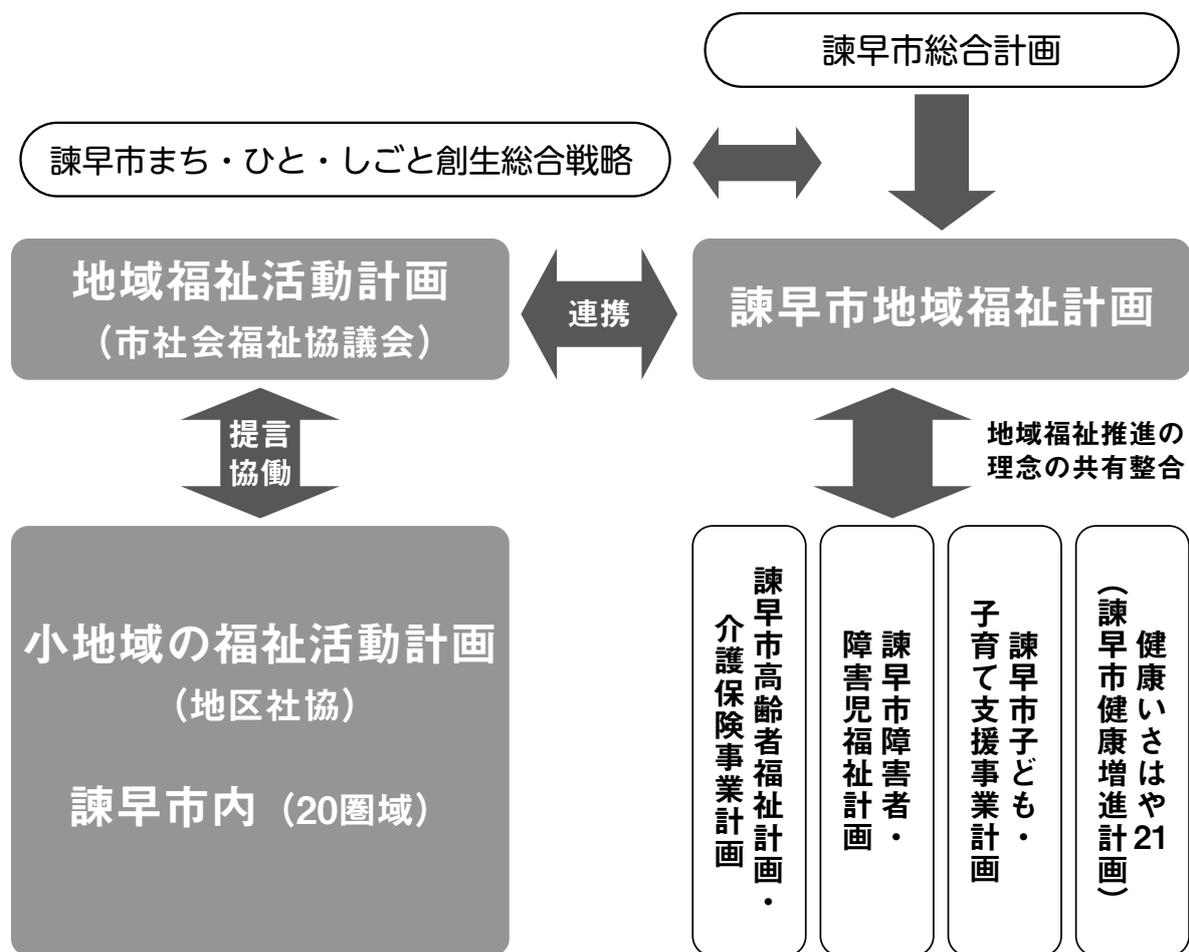
◆地域福祉を推進していくための住民と行政の協働イメージ



※このイメージ図を諫早市で例えると次のようになります。

- ①行政サービス (右手) は、行政の役割なので諫早市に大きな手が一つあります
- ②住民参加のしくみ (左手) は、顔の見える関係が基本なので、小地域ごとに小さな手がたくさんあります
- ③住民参加のしくみ (左手) をしっかりサポートしていくのが、市社協の役割になります

◆諫早市地域福祉活動計画、地区社協・地域福祉活動計画及び諫早市地域福祉計画（諫早市健康福祉総合計画）の関係図



(参考) 20の地区社協の名称と地区社協・地域福祉活動計画の策定状況
(令和4年2月1日現在)

No.	地区社協名	地区社協・地域福祉活動計画策定状況	No.	地区社協名	地区社協・地域福祉活動計画策定状況
1	諫小地区	策定中	11	小長井地区	
2	上山地区		12	森山地区	策定済
3	上諫早地区	策定済	13	小野地区	策定中
4	北小校区	策定済	14	有喜地区	策定済
5	西諫早小学校区	策定済	15	小栗地区	
6	西諫早地区		16	飯盛地区	
7	御館山校区	策定済	17	真津山小校区	策定中
8	本野地区	策定済	18	多良見東地区	
9	長田地区	策定済	19	喜々津地区	
10	高来地区		20	多良見西地区	

(2) 計画策定の背景と趣旨

市社協は、これまで3次にわたる計画を策定し、「市民一人ひとりが、尊厳を保持し、支え合いながら、安心して暮らすことができるまちづくり」を基本理念として、住民同士の支え合いの充実に向け活動してきました。

具体例として、福祉教育・福祉意識啓発活動の推進、ボランティアの育成、地区社協活動の推進、相談機能の充実、災害時における支援体制の整備などに取り組んできましたが、地域福祉を更に推進するためには、地域の福祉活動を担う「人づくり」、住民同士で支え合い助け合う「地域づくり」、地域の課題を解決する「仕組みづくり」の取り組みを一層充実していく必要があります。

また、近年は、虐待やDV、引きこもり、貧困、さらに、高齢の親と無職の子どもの同居世帯（いわゆる「8050問題」）や、介護と子育ての時期を同時に迎える世帯（いわゆる「ダブルケア」）、本来大人が担う家事や家族の介護などを日常的に行っている子ども（いわゆる「ヤングケアラー」）の問題など複雑な問題を抱え、多方面からの包括的な支援を必要とする人が増えています。

国の制度改正には、地域を基盤にした支え合いに注目し、平成30年4月施行の改正社会福祉法の中に、「地域共生社会」の実現が掲げられました。

さらに、令和3年4月施行の改正社会福祉法によって、地域住民等が自ら地域生活課題を把握し解決するための仕組みづくりや、複合的な課題を受け止めるための包括的な相談支援体制の整備に向けた新たな地域福祉の施策が進められています。

国際的には、平成27年に国連が採択したSDGs（持続可能な開発目標）において、「貧困をなくそう」「すべての人に健康と福祉を」など世界的な課題を17のゴールで示し、そのゴールに向け我が国でも福祉の領域のみならず様々な分野での実践がスタートしています（本計画の中でも、基本目標ごとに関連するゴールを図示しています）。

市社協では、これまでの取り組みの実施状況や社会情勢の変化、法制度の改正等を踏まえたうえで、福祉意識の醸成と地域福祉活動の活性化を目標とした第4次諫早市地域福祉活動計画を策定するものです。

◆ 「地域共生社会」とは

「地域共生社会」とは、制度・分野ごとの『縦割り』や「支え手」「受け手」という関係を超えて、地域住民や地域の多様な主体が『我が事』として参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えて『丸ごと』つながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく社会です。

(出典：平成 29 年 2 月 7 日 厚生労働省 「我が事・丸ごと」地域共生社会実現本部決定)

【事例紹介：「地域共生助け合い隊」の活動（飯盛町）】

「地域共生助け合い隊」（代表：藤本八重子）は、飯盛町に居住する主に 60 代の方を中心として 112 名の方で組織された団体です。核家族化が進み、ひとり暮らし高齢者の中には、体力の低下に伴い生活の不安を抱える方も増えてきました。同じ地域で暮らす住民同士による助け合い活動を進めていこうと、実施したニーズ調査をもとに、ゴミ出しや、草むしり、買い物の代行などに取り組んでいます。住民に気兼ねなく利用してもらおうと低額で行われている活動には、多くの人の協力があり、活動に使用する車両は、地元の社会福祉法人が無償提供した車を使用するなど、地域の多様な機関がつながり、助け合い活動が広がっています。

◆ 「SDG s（持続可能な開発目標）」の 17 の目標



(出典：2015年9月国連サミット)

【SDG s（持続可能な開発目標）が生まれた背景】

貧困、紛争、気候変動、感染症。人類は、これまでになかったような数多くの課題に直面しています。このままでは、人類が安定してこの世界で暮らし続けることができなくなると心配されています。そんな危機感から、世界中のさまざまな立場の人々が話し合い、課題を整理し、解決方法を考え、2030 年までに達成すべき具体的な目標を立てました。(出典：公益財団法人 日本ユニセフ協会ホームページ)

(3) 計画の期間

本計画の計画期間は、関係する諫早市地域福祉計画に合わせて、令和4年度から令和8年度（2022年度～2026年度）までの5年間とします。

(4) 計画策定までの歩み

本計画の策定にあたり、一般市民、地区社協の担い手の方々及び民生委員・児童委員を対象に、地域福祉に関するアンケート調査を実施するとともに、地区社協を対象としたヒアリング及び福祉の専門家から、広くご意見をいただきました。

また、地区社協で策定が進められている地区社協・地域福祉活動計画で、今後目指す地域の在り方に対する取り組み例なども本計画の中に反映させています。

◆地域福祉に関するアンケート調査（以下、「アンケート」という）

① 調査の目的

市民の地域福祉に関する意識や意向、生活課題を調査、把握し、計画に反映するため諫早市と合同でアンケートを実施しました。

② 調査の対象、調査方法及び回収結果

	一般市民	地区社協	民生委員・児童委員
調査地域	諫早市全域		
調査対象	市内在住の20歳以上の男女	地区社協関係者	諫早市が委嘱している民生委員・児童委員
調査対象数	2,500人	200人	312人
抽出方法	住民基本台帳から無作為抽出	各地区社協関係者の中から10人を抽出	全員
調査方法	郵送による配布・回収		
調査期間	令和3年2月9日～令和3年3月12日		
回答数 (回収率)	846件 (33.8%)	149件 (74.5%)	292件 (93.6%)

◆地区社協・地域福祉活動計画

地域福祉を推進するためには、身近にある地域の生活課題を把握し、そのニーズに基づいた福祉活動を展開する必要があります。市社協は、20の地区社協とともに、自分たちの生活課題を共有し、地域の良さや強みを生かして課題解決に向け行動するための考え方や取り組みを定めた「地区社協・地域福祉活動計画」の策定に取り組んでいます。

(地区社協・地域福祉活動計画を策定した地区社協の基本理念と重点目標)

No.	地区社協	基本理念	重点目標
1	上諫早地区	3つの“あい”があふれるまち上諫早	①助けあいのあふれるまちを目指そう ②ふれあいのあふれるまちを目指そう ③郷土あいのあふれるまちを目指そう
2	北小校区	心ほくほく温もり感じる北諫早	①いつまでも笑顔で暮らせるために… みんなで継続したまちづくりを進めましょう！ ②安心と絆のあるまちを目指して… 新しい取り組みをはじめましょう (地域の見守り体制づくり)
3	西諫早小学校区	みんなで咲かせる地域の“わ”	①みんなではぐくむ人づくりの“話” ②みんなで支える地域づくりの“和” ③みんなで助ける安全安心の“輪”
4	御館山校区	共に支え合い安心して暮らせる御館山	①誰もが生きがいを持てる地域づくり ②人と人が共に支え合う仲間づくり ③地域住民の絆づくり
5	本野地区	もてる力を活かしともに支え合いのばそう地域の絆	①もてる力を活かし地域のつながりを深めます ②地域のつながりを活かしお互いさまの支え合いを推進します
6	長田地区	誰もがふれあい支え合う地域づくり	①高齢者がふれあえるまち ②子どもたちが安心して住めるまち ③地区社協活動の充実
7	森山地区	防減災まちあるき事業を通し、地域が共に支え合う町づくり	①高齢者等の出番と役割が発揮できる地域づくり ②住民同士が支え合う地域の見回り活動 ③災害時への構えづくり
8	有喜地区	地域で心 Uki 有喜と支え合うまちづくり	①高齢者が安心して頼れるまち ②子ども達の元気な声が響くまち ③災害時でも安心、助け合うまち

※計画期間：令和3年度から令和7年度。御館山、有喜は、令和2年度から令和6年度

◆地区社協・地域福祉活動計画で今後取り組んでいく活動

令和元年度から順次、各地区社協で策定が進み、令和3年12月末現在で8地区の地区社協で策定され、さらに残る12地区についても順次、策定を呼び掛けることによって、令和8年度までに全20地区の策定を目指しています。なお、現状で各地区社協で共通し今後取り組んでいく活動として、3つの分野が明らかになっています。

① 要援護者が安心して過ごすための見守り活動

- ひとり暮らし高齢者や高齢者のみの世帯の不安解消と、障害者が地域で安心して暮らしていくために、高齢者や障害者など要援護者に対する理解を深める。
- 住民の力を活かした見守り体制を強化するため、ふれあいいきいきサロンや福祉協力員活動の充実に取り組む。

② 防災・減災意識の向上や災害時の避難支援

- 近年自然災害が多発するなか、平時から防災・減災の取り組みが必要。防災に関する研修会の実施による防災意識の向上や、危険箇所の点検・避難経路の確認等による減災に向けた取り組みを行う。
- 要援護者への支援方法を整備することで、安心安全な地域づくりに取り組む。

③ 住民が主体となって行う支え合い活動

- 住民誰もが、生きがいを持って安心して暮らすためには、普段から住民同士がつながり、困ったときに気軽に声を掛け合い、助け合う関係性が必要。軽易な生活支援や子どもの地域の見守り等を推進し、支え合い活動の充実を図る。

◆関係団体へのヒアリング

① ヒアリングの目的

計画に関係する団体等の有識者に計画に関するご意見をお伺いしました。

② 実施状況

(ア) ヒアリング対象：地区社協（西諫早小校区、森山地区）

諫早小学校

諫早市ボランティア連絡協議会

諫早市中央部地域包括支援センター

障害者相談支援事業所スマイルサポート

(イ) ヒアリング期間：令和4年3月10日～令和4年3月22日

◆監修

① 監修の目的

福祉の専門家に本計画に関する助言を得ることで、実効性の高い地域福祉活動計画とするためお願いしました。

② 監修依頼先

鎮西学院大学 教授 中野 伸彦 氏

(5) 地区社協・地域福祉活動計画（8地区の計画）の取り組み状況

【上諫早地区社協・地域福祉活動計画】

第
1
章

第
2
章

第
3
章

第
4
章

資
料
編

上諫早地区 地域福祉活動計画

(計画期間：令和3年度～令和7年度)

3つの“あい”が あふれるまち 上諫早

ふれあい



助けあい

郷土あい

上諫早小学校（平成15年新校舎建設のようす）

上諫早地区社会福祉協議会

この計画は上諫早地区をより暮らしやすい地域にするために、住民の力で地域福祉を進めていくための目標です。「上諫早地区ですっと暮らしたい」と思える地域をみなさんの手で作りましょう！

上諫早地区はこんなところ

- 諫早市中央地区の北部に位置し、本明川の水をいただく農耕地が広がる本明町、市街地を見下ろす目代町の2町を地区とした自然豊かな地域です。
- 自然の中で育つ子どもたちは、素直で明るく、みな仲良く過ごしています。
- 歴史も深く、本明町には諫早地区で一番古い平松神社があり、神社に伝わる伝統芸能「浮立」の伝承がされている町です。目代町には室町時代からこの地区の荘園(目代)が置かれました。また、両町には戦争で亡くなられた御霊「忠魂碑」が祀られ、今なお戦没者の慰霊が継承されています。
- 最近では少子高齢化が急速に進み、市内でも高齢化率が高い地域になります。
- 地域のふれあいを大切に、ひとり暮らしの高齢者や子どもたちを地域全体で気かけ、声を掛け合いながら連携を図って見守っています。



平松神社

■ 世帯数及び高齢化率

※令和3年1月1日現在

年齢層	男性	女性	合計	世帯数	諫早市全体
15歳未満	86人	91人	177人	604世帯	18,115人
15～64歳	462人	459人	921人		75,697人
65歳以上	339人	365人	704人		40,992人
合計	887人	915人	1,802人		134,804人
高齢化率	38.2%	39.9%	39.1%		30.4%
年少割合	9.7%	9.9%	9.8%		13.4%

■ 上諫早地区社会福祉協議会の主な事業

○ふれあいいいききサロン(実施箇所:3箇所)

区域	サロン名	開催場所	開催日	開催時間
目代町	ふれあいいいききサロン“めしろ”	目代町公民館	第2・4月曜日	13:00～15:30
目代町	おしゃべり広場	目代町下公民館	第1・3火曜日	10:30～12:00
本明町	本明にこここサロン	本明町公民館	第1・3火曜日	15:00～17:00

- ふれあい食事サービス(年1回実施)
- 世代間交流会(年1回実施)
- 福祉協力員設置(設置人数:6人)
- 福祉協力員研修(年1回実施)
- 高齢者対象講習会(年1回実施)
- ひとり暮らし高齢者宅訪問
- 高齢者宅へ花(鉢植え)配り
- 広報紙発行(年1回発行)



ひとり暮らし高齢者と小学生の交流会



「ふれあい食事サービス」高齢者へのお弁当準備のようす

(出典) 令和元年度上諫早地区社会福祉協議会事業報告書

今後5年間（令和3～7年度）で目指すまちづくり

3つの“あい”が

1 助けあい のあふれるまちを目指そう

高齢者世帯が増え、見守りの充実が必要



①ひとり暮らし高齢者宅訪問の継続実施

・民生委員による見守り、相談活動を行います

②「ふれあい食事サービス」の継続実施

・ひとり暮らし高齢者宅へふれあいと見守りを目的に、お弁当を提供します

③「福祉協力員研修会」の継続実施

④高齢者宅へ花（鉢植え）配りの継続実施

・小学生が育てた花をひとり暮らし高齢者宅へ届けます



民生委員による訪問

昔ながらの人が多く、住民同士が仲良い



ゴミ出しや交通手段、買い物に不安がある

⑤住民の困りごとを解決するための取り組み

・高齢者対象講習会の充実を図ります
・先進地区の情報収集に努めます

⑥住民のアンケート調査の検討

・高齢者等の困りごとについての把握をします
・買い物支援等の検討をします



高齢者講習会

地域で子どもを見守り育てよう



⑦「地域子ども教室」実施の検討

⑧子どもの登下校の見守り活動の充実

⑨防犯灯の増設の検討、確認

災害時も安心して過ごせる仕組みづくりを



⑩「地域の防災意識の向上と要援護者の支援のあり方」の協議

・防災に関する勉強会の実施を図り、避難場所や避難経路の確認をします
・要援護者の把握や支援体制づくりに努めます



あふれるまち 上 上 早



2 ふれあい のあふれるまちを目指そう

高齢者が、歩いて
集まれる場所での
交流が必要

①「ふれあいいいききサロン」の充実

- ・誰もが参加しやすい運営方法を検討します



サロンで実施する新しいレクリエーションを学ぶようす

外で遊ぶ子どもを、
あまり見なくなった



②世代間交流会の実施と充実

- ・ひとり暮らし高齢者と小学生の交流会の実施をします
- ・昔遊びの伝承をします
- ・「通学合宿」の検討をします



ひとり暮らし高齢者と小学生の交流会

3 郷土あい のあふれるまちを目指そう

若い人が地元
に残らない

地域の
活動の輪を
広げよう!

①豊かな自然や地域の伝統や歴史を学び、郷土愛を育む また、地域の活動の輪を広げる

- ・広報紙発行の継続をします

②子ども会と老人会が共に活動できる機会をつくり、地域の ことを学ぶ場の検討

- （平松神社の清掃など）



北諫早小校区の
みなさんへ

地域福祉活動計画

(計画期間：令和3年度～令和7年度)

心ほくほく 温もり感じる 北諫早

みんなで
つくろう!

この計画は北諫早小校区をより暮らしやすい地域にするために、住民の力で地域福祉を進めていくための目標です。



福田面浮立〈福田町〉



登下校見守り〈泉町〉



ラジオ体操〈金谷町〉



もぐら打ち〈城見町〉



鬼火焚き〈天満町〉

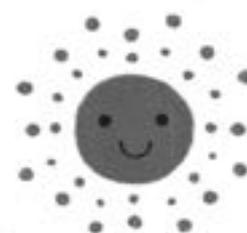


夏まつり〈日の出町〉

北諫早小校区社会福祉協議会



安心と絆のあるまちを目指して…
B. 新しい取り組みをはじめましょう



地域全体が連携して見守り、安全なまちづくり

① 高齢者の見守り

⇒町単位で孤立をしないような見守り体制をつくりましょう。



ひとり暮らし高齢者宅へ訪問



登下校の見守り活動

② 子どもたち（幼児・児童・生徒）の見守り

⇒各町で見守り活動を実施し、日数や人数を増やす等、できる範囲で見守り体制を充実しましょう。

③ 福祉協力員の増員

⇒あなたも福祉協力員になりませんか。地区社協の皆さんと連携を深め、活動しましょう。

福祉協力員とは…

地域ごとの見守りや交流促進などに、地区社協の委嘱を受けて活動するボランティアです。

わたしたちが明日からできること

あいさつで日ごろからのつながりを



いってきます！



みんながお互いに気にかけてあおう

郵便受けに新聞がたまっている



最近見かけないけど元気かな？

問い合わせは… **北諫早小校区社会福祉協議会**（会長：堀口 春記）

☎ (0957) 22-5097（天満町公民館内） 諫早市天満町34-7

今後5年間（令和3～7年度）で目指すまちづくり

心 ほくほく 温もり

（現状） 北諫早小校区ってこんなところ！

- 本明川の北東に位置し、諫早市の中心部（福田町、泉町、金谷町、城見町、天満町、日の出町）
- 自治会・町内会の区域が広く、多良岳に向かって形成されている
- 人口と世帯数が市内で最も多い（下表：諫早市全体の約1割を占めている）
- 幹線道が通り、交通の便が良く、教育施設、医療機関、商店街が近くにあり、生活に必要な環境が整っている
- 町ごとにお祭りや伝統芸能の継承などの行事があり、住民が交流する機会が多い
（鬼火焚き、もぐら打ち、浮立、夏祭り、運動会、マラソン大会、もちつき等）

■ 人口及び高齢化率

※令和3年1月1日現在

年齢層	男性	女性	合計	世帯数	諫早市全体
15歳未満	897人	746人	1,643人	5,260 世帯	18,115人
15～64歳	3,491人	3,714人	7,205人		75,697人
65歳以上	1,531人	2,149人	3,680人		40,992人
合計	5,919人	6,609人	12,528人		134,804人
高齢化率	25.9%	32.5%	29.4%		30.4%
年少割合	15.2%	11.3%	13.1%		13.4%

（参考）諫早市ホームページ

■ 活動中の主な事業（令和2年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため事業内容を変更しています）

○ふれあいいきいきサロン（実施箇所：1箇所）

区域	サロン名	開催場所	開催日	開催時間
日の出町	いきいきサロン日の出	日の出町公民館	第2火曜日	13:30～15:30

○ひとり暮らし高齢者の集い（年1回開催）

○ふれあい食事サービス（年5回実施）

○子育てサロン（実施箇所：1箇所）

区域	サロン名	開催場所	開催日	開催時間
校区全域	つくしんぼクラブ	各町公民館を巡回	第3水曜日	10:00～12:00

○福祉協力員（設置人数：5人）

○北諫早小校区内の団体への支援（老人会、子ども会、北地区婦人会、伝統芸能継承等）

○広報紙「ほのぼの」発行（随時）

（出典）令和2年度北小校区社会福祉協議会事業計画書

感じる北諫早



いつまでも笑顔で暮らせるために…

A.みんなで継続したまちづくりを進めましょう!

現在の取り組みを生かして、さらに発展を



「ひとり暮らし高齢者の集い」



「ふれあいいいききサロン」



① 「ふれあいいいききサロン」の充実を図り、継続して取り組みながら、各町での開設を推進しましょう。

② 好評の「ひとり暮らし高齢者の集い」を継続し、更に交流を深めましょう。

③ 若い世代と協働した「ふれあい食事サービス」を推進しましょう。
⇒北諫早中学校との協働を推進します。

④ 「子育てサロン」の充実を図りましょう。
⇒未就学のお父さん、お母さんたちの参加をお待ちしています。

⑤ 地域の行事や活動に積極的に参加しましょう。



中学生と協力し高齢者へ届けるお弁当も
温かい手づくり



「子育てサロン」

西諫早小学校区社会福祉協議会
地域福祉活動計画

みんなで咲かせる地域の“わ”



西諫早小学校区社会福祉協議会

西諫早小学校区ってどんなところ??

Q.西諫早小学校区の特徴は!?

A. 昭和40年代に開発された西諫早ニュータウンである馬渡町、山川町、中尾町では高齢化率が40%を超える中、地域住民の中で住民同士の支え合いの必要性が再確認され介護予防や生活支援の取り組みに向けた活動が始まっています。また、毎年実施される「鬼火焚き」では、地域住民の1年間の無病息災を祈ります。この行事は30年以上続き地域の伝統行事となっています。



Q.どのくらいの人に住んでいるの? (令和3年1月1日現在)

A. 8,921人の人が生活をしています。地区の高齢化率は32.4%、世帯数は3,779世帯となっています。

町名	0歳~14歳 (人)	15歳~64歳 (人)	65歳以上 (人)	合計 (人)	高齢化率 (%)	世帯数 (世帯)
小船越町	660	3,043	1,221	4,924	24.8	2,150
馬渡町	154	750	612	1,516	40.4	619
山川町	171	748	676	1,595	42.4	634
中尾町	88	414	384	886	43.3	376
合計	1,073	4,955	2,893	8,921	32.4	3,779

Q.なぜこの計画を作ったの?

A. 地域の特性に応じた、住民に必要とされている活動を計画として明文化することで、住民間で共通認識することができ、生活に密着した地域福祉を推進するために作成しました。

Q.いきいきサロンはそれぞれの町で何か所実施してるの?

A. 小船越町………2か所
馬渡町………3か所
山川町………1か所
中尾町………2か所
詳しくは地区社協事務局にお尋ねください。

Q.西諫早小学校区社協ってどんなことをしているの?

A. いきいきサロン(8箇所)、ひとり暮らし高齢者の集い(1回)、世代間交流事業(通学合宿など)、福祉協力員設置(16人)、地区懇談会(各町1回ずつ)、広報紙発行(年2回)を実施しております。

Q.この計画の位置づけは?

A. この計画は諫早市の地域福祉計画と、諫早市社会福祉協議会の地域福祉活動計画と連携して策定されています。今後、西諫早小学校区社協の状況や必要性に応じて本計画も随時見直していきます。

Q.西諫早小学校区の保育園と学校は?

A. 校区内には、太陽保育所、つぼみ保育園、星の子保育園、ばらの幼稚園、西諫早小学校、西諫早中学校があります。

西諫早小学校区社会福祉協議会
令和3年3月発行

西諫早小学校区社会福祉協議会 地域福祉活動計画

みんなではぐくむ 人づくりの“話”

地域の活性化につながる人づくりや、若者世代、高齢者世代とコミュニケーションを深める活動に取り組みます。

取り組む内容

- ① 「広報紙」の充実
地域の思いを発信し、住民の地区社協活動への関心を高めます。
- ② 「地区懇談会」の実施
地域の話し合いを通じて、地域のネットワークに参加する協力者を増やします。
- ③ 「地区社協活動と連携した交流の場」の創出
学校との連携による福祉人財の育成に努めます。
- ④ 「福祉に関する講演会・研修会」の開催
住民の福祉に関する理解を深め、活動のきっかけづくりとします。



子どもたちが地域の方と協力して、田植え、稲刈り、脱穀を行い、最後は餅つきをします。

みんな 地域づくり

地域で顔見知りになるき
支えるしくみづくりに取

取り組む内容

- ① 「ふれあいいきいきサ
高齢者の生きがいづく
- ② 「ひとり暮らし高齢者
住民同士が気楽に話せ
- ③ 「福祉協力員」の充実
地区社協構成委員の連携
- ④ 「世代間交流事業(通
地域で子どもの成長を
- ⑤ 「子育てサロン」の取
悩みを共有し、“困った
支え合う地域づくりを推
- ⑥ 「地区社協ボランティ
その人の持つ力を地域に
- ⑦ 「生活支援ボランティ
住民が気軽に助け合う

基 本

みんなであそぼ

で支える の“和”

きっかけをつくり、地域で
り組みます。

「フロン」の充実

りと介護予防に努めます。

「集いの集い」の実施

る関係づくりに努めます。

、組織化など

を深め、支え合える地域を目指します。

学舎宿・地域子ども教室)」の実施

見守ります。

り組み

ときはおたがいさまの気持ち”で

進めます。

「ア登録」の推進

活かし、地域を活性化します。

「ア」の実施

体制を作ります。

令和3年度～
令和7年度
【5カ年計画】

みんなで助ける 安全安心の“輪”

ささやかな見守りで安心して暮らせる地域づくりに取り組みます。

取
り
組
む
内
容

① 「見守り活動」の充実

見守りを通して、誰もが安心して暮らせる地域を目指します。

② 「防災図上訓練 DIG」、「防災訓練」の実施

地域の防災の意識向上と災害時における要援護者の支援に努めます。



地域の方が協力して竹を切り、毎年1月に鬼火焚きを実施しています。

理 念

る地域の“わ”

共に支え合い 安心して暮らせる御館山

御館山校区社会福祉協議会 地域福祉活動計画



子育てサロン（おひさまクラブ）でのふれあい

計画期間：令和2年度～令和6年度

御館山校区社会福祉協議会

御館山校区に関する情報

●世帯数及び高齢化率

※令和元年10月1日現在

地区名	年齢層	男性	女性	合計	世帯数
御館山 永昌 永昌東 栄田 西栄田 大さこ	15歳未満	792人	700人	1,492人	3,895 世帯
	15～64歳	2,523人	2,749人	5,272人	
	65歳以上	940人	1,316人	2,256人	
	合計	4,255人	4,765人	9,020人	
	高齢化率	22.1%	27.6%	25.0%	
	年少割合	18.6%	14.7%	16.5%	

御館山校区社会福祉協議会の主な事業 (令和2年1月末現在)

◎ふれあいいきいきサロン (実施箇所：3箇所)

対象区域	サロン名	主な開催場所	主な開催日	主な開催時間
永昌町	いきいきサロン永昌	永昌町公民館	毎週火曜日	10:00～12:00
栄田町	いきいきサロン栄田	栄田町第2公民館	第2・3・4火曜日	10:00～12:00
西栄田町	いきいきサロン西栄田	西栄田町公民館	第4月曜日	10:00～12:00

◎ひとり暮らし高齢者の集い (年1回開催)

◎ふれあい食事サービス (実施箇所：2箇所)

◎子育てサロン (実施箇所：1箇所)

対象区域	サロン名	主な開催場所	主な開催日	主な開催時間
御館山校区全町	おひさまくらぶ	永昌町公民館	第4金曜日	10:00～12:00

◎福祉協力員 (設置人数：15人)

◎青少年健全育成・高齢者とのふれあい推進協力

◎防犯・防災・交通安全の推進協力

◎見守りネットワーク

◎三世代ふれあい交流会への協力 (通学合宿など)

◎自治会・老人会主催行事への積極的参加協力

(出典) 令和元年度御館山校区社会福祉協議会事業計画書

今後の抱負

2019年のラグビーワールドカップでの日本チームの活躍は、多くの人々に感動を与えました。一人がみんなのために、みんなが一人のために、ワンチームになれたこそ感動だと思います。

私たち校区社協も、ワンチームとなって誰もが生きがいを持って暮らすことができる地域づくりのため、一人ひとりの力を結集していきたいと思ひます。

御館山校区の概要と現状



御館山校区の概要

御館山校区は、幼稚園から小・中・高・大学までの教育機関があり、諫早駅、総合病院、高齢者施設など交通・教育・医療・福祉と環境に恵まれている地区である。

新幹線開業にあわせて諫早駅周辺が整備され、若い世帯が増えるなど活気があふれている地区でもある。ふれあいいきいきサロンや通学合宿など住民同士による支え合いがみられる半面、マンションなどでは横のつながりが薄く、地域行事に参加する人も少なくなるなど課題も抱えている。

地区の良いところ

- ふれあいいきいきサロンが盛んである。
- 老人クラブの活動が充実し、高齢者同士で支え合う基盤がある。
- 幼稚園・保育園から大学まで教育機関等が充実している。
- 小学校登下校時の見守り活動や、地区で通学合宿に関する取り組みが行われるなど、地域で子どもの成長を見守る基盤がある。
- 病院、高齢者施設、商店、娯楽施設などが近くにあるため生活に便利であり、駅やバスターミナルがあるなど交通の便も良い。
- 文化祭や花植え、夏祭りなど各自治会の活動が盛んであり、各種団体の活動を楽しみにしている人も多い。
- 町の行事に学校施設を利用でき、大学生ボランティアの協力も得られる。



地区の気になるところ

- ひとり暮らしの高齢者、高齢者夫婦の世帯が増えている。
- 地域によっては、坂道が多かったり、近くに店舗がなかったりするため、高齢者にとって生活の買い出しに困る。
- 子ども会の加入者が減少傾向にあり、会の活動の沈滞が危惧される。
- 自治会の役員や班長、消防団員等、組織、団体の役職を引き受ける人が少ない。
- 対人関係の希薄化により横のつながりが薄く、誰がどんなことに困っているかなど実態把握が困難である。
- 昔は近所同士の助け合いがあったが、転入者をはじめ、町の行事など地域活動に参加・協力する人が少なくなった。
- 防災マップ未作成の地域がある。



御館山校区社協の基本理念と重点目標



御館山校区の基本理念 共に支え合い安心して暮らせる御館山



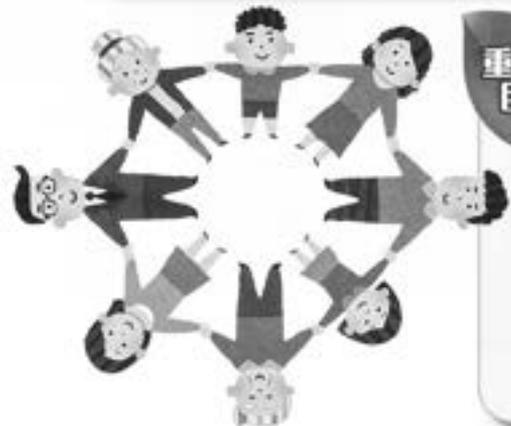
「誰もが生きがいを持てる地域づくり」

- 高齢者が集い、生きがいづくりと介護予防につなげる「ふれあいいいききサロン」の充実に努める。
- 地域で支援を必要とする高齢者や障害者等に対する理解を深めらえるよう研修会の開催や支援の取り組みに努める。
- 地域で安心して子育てができるよう「子育てサロン」の充実に努める。



「人と人が共に支え合う仲間づくり」

- 子どもの集まる場をたくさん作る。
- 登下校の見守り活動に取り組み、通学路の拡張と歩道の設置を働きかける。
- 高齢者の情報収集ができる場を作る。
- 災害時における要援護者への支援体制作りに努める。
- 地域の危険箇所や地域住民が生活するうえで障害となる箇所を確認し、地域の問題点の共有や改善、日頃の支え合い活動に活用する。
- 誰にも相談できず地域で孤立する方がいないように、住民同士の声かけや見守り活動に取り組む。



「地域住民の絆づくり」

- 町民参加型の行事を企画し、地域住民の絆を広げる。
- 町や校区の住民が知り合う機会を作る。



本野地区ってどんなところ？



Q. 本野地区はどんな特徴があるの??

A. 本野地区は、本野町、富川町、湯野尾町、上大渡野町、下大渡野町の5町で構成されており、諫早市の中央を流れている本明川の上流に位置した緑に囲まれた自然豊かな地区です。
 地区の特徴として、昔からの伝統や行事を住民が協力しながら行っており、人と人との絆が強い地区です。

Q. 本野地区はどのくらいの人が住んでいるの？
 (令和3年4月1日現在)

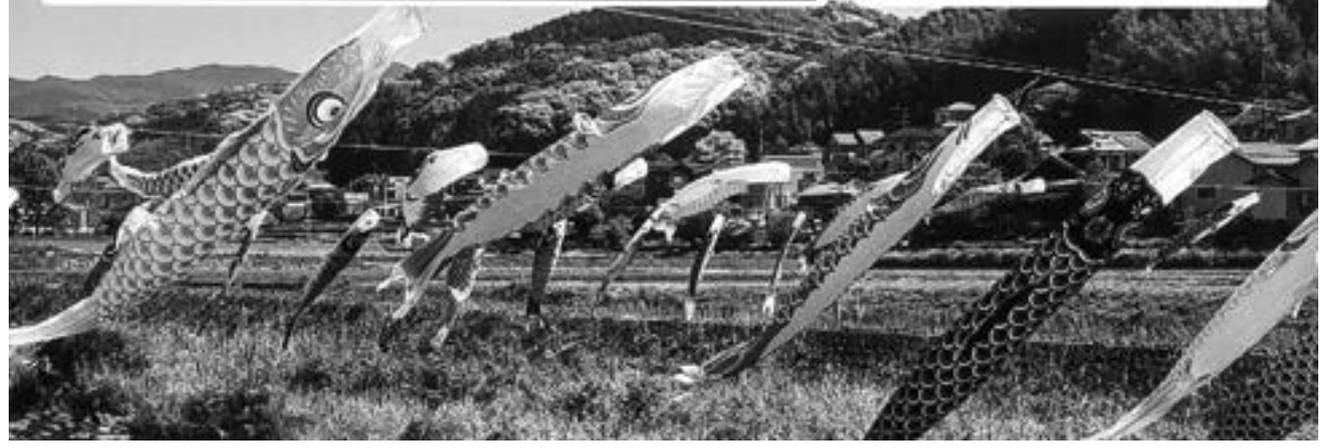
A. 2,003人の人が生活をしています。地区の高齢化率は40.5%、世帯数は719世帯となっています。

町名	0歳～14歳(人)	15歳～64歳(人)	65歳以上(人)	合計(人)	高齢化率(%)	世帯数(戸)
本野町	26	289	179	494	36.2	182
富川町	6	97	87	190	45.8	75
湯野尾町	32	156	153	341	44.9	131
上大渡野町	52	233	168	453	37.1	141
下大渡野町	39	261	225	525	42.9	190
合計	155	1036	812	2003	40.5	719

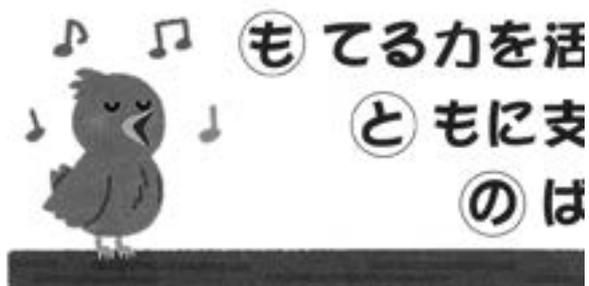
Q. 本野地区のサロンはどんなところがあるの？

実施町名	サロン名	主な開催場所	主な開催日	主な開催時間
本野町	ついたち会	彦城公民館	第4木曜日	10:40～16:00
本野町	琴川サロン	琴川構造改善センター	毎月23日	13:00～15:00
本野町	うきうきサロン	柳谷集落センター	第2水曜日	13:30～16:00
本野町	大楽会	大野構造改善センター	毎月15日	10:00～12:00
本野町	虹の会	谷川営農研修館	第2日曜日	14:00～16:30
富川町	ふれあいサロン二股	二股公民館	第2,4水曜日	9:00～17:00
湯野尾町	スマイル会	湯野尾集落センター	第2火曜日	10:00～15:00
上大渡野町	上大渡野町ふれあいきいきサロン	円能寺公民館	第4金曜日	13:30～15:30

- ～本野地区の地域行事紹介～
- ☞ 4～5月 こいのぼり
 - ☞ 7月 本野地区合同追悼法要並びに源流祭
 - ☞ 8月 夏祭り
 - ☞ 9月 敬老会・ひとり暮らし高齢者の集い
 - ☞ 11月 菊まつり
 - ☞ 11月 秋の収穫祭
 - ☞ 12月～1月 イルミネーション
 - ☞ 1月 鬼火焚き
 - ☞ 3月 本野地区老人福祉大会
- 本野地区の行事に参加して、地域の絆を伸ばしていきましょう!!



計画期間
令和3年度～令和7年度



高齢者の方を地域で支えていくために、「敬老会・ひとり暮らし高齢者の集い」の内容の充実・発展を図り、継続して「老人福祉大会」の支援を行います。

地区振興会、自治会、婦人会、老人会、子供会、健全育成会、民生委員協議会等の各種団体と連携を図り地域のつながりを深めます。

地域の歴史や伝統を大切にし、世代間の交流の輪を広げていきます。

- ・浮立の継承（芸能保存会から子どもたちへ）を通して、世代間交流の支援
（参考）・中本明（本野、富川）
・大波野（上、下）
・湯野尾
- ・保存食づくりが得意な高齢者が次世代に作り方を教える機会の創出

講演会・研修会を通して「福祉の心」や「ともに生きる力」を学び地域福祉への関心や理解を深めます。

- （例）・認知症サポーター養成講座
・消費生活出前講座 等

地区社協の情報を発信し、住民の地域活動への関心を高めます。

- ・本野地区の情報発信として広報紙の発行



重点目標①

もてる力を活かし地域のつながりを深めます

活かし え合い そう地域の絆



地域の子どもたちが、健やかな成長ができるように、地域全体で見守ります。

- (例) ・子ども書初め展 ・鬼火焚き
・地域子ども教室 ・子ども浮立
・小学校運動会への参加

集いの場をつくり、高齢者の生きがいづくりと地域のつながりを深めるために、「ふれあいいきいきサロン」の充実を図ります。

- (参考) ・本野町5箇所 ・富川町1箇所
・湯野尾町1箇所 ・上大渡野町1箇所
(令和3年3月現在)

高齢者の見守りを兼ねた「ひとり暮らし高齢者給食サービス」を実施します。

- ・婦人会、民生委員協議会、食生活改善推進協議会による支援
- ・年4回(11月、12月、1月、2月)実施
- ・ひとり暮らし高齢者宅に手作りのお弁当を配布

地域で安心して暮らしていくために、地域の防災に対する意識の向上を図ります。

- (例) 防災講座の実施
「クロスロードゲーム」「DIG」「HUG」
などゲーム形式を取り入れた研修会の企画

見守り活動を通して、隣近所で困りごとを気づき合える関係を築きます。

- (例) 福祉協力員の設置
- ・隣近所の見守り、声かけを継続して実施
 - ・日頃から隣近所との挨拶を心がける



重点目標②

地域のつながりを活かしお互いさまの
支え合いを推進します

だれもがふれあい 支え合うまちながた

長田地区社会福祉協議会
地域福祉活動計画



計画期間：令和3年度～令和7年度

長田地区社会福祉協議会

《長田地区に関する情報》

◎長田地区世帯数及び高齢化率

※令和4年2月1日現在

地区名	年齢層	男性	女性	合計	世帯数
長田地区 小豆崎町 西里町 中田町 御手水町 大場町 白木峰町 長田町 正久寺町 高天町 白浜町 白原町 鏡崎町	15歳未満	283人	295人	578人	1,831世帯
	15～64歳	1,299人	1,344人	2,633人	
	65歳以上	857人	1,096人	1,953人	
	合計	2,439人	2,725人	5,164人	
	高齢化率(65歳以上)	35.14%	40.22%	37.82%	
	年少割合(15歳未満)	11.60%	10.83%	11.19%	

長田地区社会福祉協議会の主な事業（令和4年3月31日現在）

◎ふれあいいきいきサロン（実施箇所：4箇所）

対象区域	サロン名	主な開催場所	主な開催日	主な開催時間
高天町	高天町ふれあい いきいきサロン	高天町公民館	第3月曜日	9:00～15:00
正久寺町	正久寺ふれあい いきいきサロン	正久寺町集会所	第4金曜日	13:00～15:00
西里町	西里いきいきサロン	西里町公民館	第3木曜日	13:30～15:30
白原町	白原サロン	白原町公民館	第2土曜日	13:00～16:30

◎ひとり暮らし高齢者の集い（年1回開催）◎ふれあい食事（ひなまつり弁当配布）（年1回開催）

◎子育てサロン（実施箇所：1箇所）

対象区域	サロン名	主な開催場所	主な開催日	主な開催時間
長田地区	ちいさいうさぎ	長田みのり会館	第2金曜日	10:00～12:00

◎自治会・老人会主催行事への積極的参加協力 ◎長田地区各町敬老会費用補助

◎長田地区社会福祉協議会広報紙「ふれあいだより」発行（年2回）

◎長田駅伝大会後援

長田地区の概要と現状

長田地区の概要と現状

長田地区は諫早市のほぼ中央に位置し、五家原岳中腹から麓の諫早湾までの南斜面に約1,800世帯、5,100人が暮らす農村地域で、12町自治会から構成されています。

地域活動として、ふれあいいきいきサロン4箇所、敬老会12箇所などの活動を支援する他、一人暮らしのお年寄りに対する「ひな祭り弁当の配布」や「一人暮らし高齢者の集い」、子育て中のご家族を支援する「子育てサロン（1回/月）」などを開催しています。

また、各町には、浮立、野狐（やこ）踊り、龍踊などの伝統行事も継承されており、その練習や本番を通じてお年寄りに子どもたちが指導を受けるなど世代間交流ともなっています。



地域の良いところ

- ① 顔の見える関係、気軽に声掛けが出来、周囲の人の理解がある。
- ② 良い距離感があり信頼関係が築きやすい。住民の横の繋がりが強い。
- ③ 日頃から声掛けがよく出来ている。
- ④ 一人暮らしの人でも相談できる相手がいる人が多い。
- ⑤ 地域の人が指導者として小中学生の指導をしてくれる人が多い。
(学校のクラブ活動が盛ん)
- ⑥ 運動会や郷土芸能を通じ子供から大人までの繋がりがあがる。
- ⑦ 子供会の加入率100%、チームワークがいい。

地域の気になるところ

- ① ひとり暮らしの人には、一般の人は声が掛けにくいときがある。
- ② 老人会など集まりに出てこない人ほど助けが必要なことが多い。
- ③ 地域が広く車無しでは生活できない、車の運転が出来なくなると移動手段がなくなる。
- ④ 困っていることを発信できる方法があればいい。

長田地区社協の基本理念と重点目標

長田地区の基本理念

誰もがふれあい 支え合う地域づくり

重点目標1

高齢者がふれあえるまち

- ① 高齢者が集える場所の提供を行う。「ふれあいいきいきサロン」の充実に取り組む。
- ② サロンや老人会の集まりに出てこない人への呼びかけを工夫する。
- ③ 高齢者同士が集える老人会の活動を支援する。
- ④ ひとり暮らし高齢者に対する「ひな祭り弁当の配布」を継続する。
- ⑤ 自治会・民生委員・児童委員・ボランティアなどを中心に支援のネットワークをつくり、ひとり暮らし高齢者の見守りや支援活動を推進する。

重点目標2

子どもたちが安心して住めるまち

- ① 子どもたちの登下校の見守り・声掛け・挨拶等を通じてふれあいを深める。
- ② 自治会長・民生委員・児童委員が子どもたちの学習を支援する「寺小屋」を続ける。(学習支援ボランティア)
- ③ 各町の伝統行事(野狐踊り、浮立、龍踊、神社お祭り等)に子どもたちが参加し世代間交流を深める。(世代間交流事業)
- ④ 民生委員・児童委員・ボランティアなどを中心に支援のネットワーク活動を推進する。
- ⑤ お母さんたちが知り合える場でもある、親子と地域の交流の場「子育てサロン」を継承して実施していく。

重点目標3

地域社協活動の充実

- ① 地区社協構成員と町民の皆さんとの連携を強化し上記目標を実践する。
- ② 地区社協行事の広報活動(事業内容、利用方法等)の充実を図る。

地域が共に支え合う町 安心・安全の町づくり
森山地区社会福祉協議会 地域福祉活動計画



五穀公園から望む練早平野

計画期間：令和3年度～令和7年度

森山地区社会福祉協議会

1. 森山地区の概況

【森山地区の概況】

森山地区は、島原半島の付け根に位置し、北は有明海の諫早湾、南は橘湾に面し、北に国道 57 号及び島原鉄道、南に国道 251 号に挟まれ交通量も多い。

基幹産業の農業は、北部では諫早干拓での米作、麦作、ハウス栽培によるミニトマト、路地栽培によるブロッコリー等が盛んであり、南部では施設園芸等、米作中心から多角的な大規模農業経営が顕著になってきている。

一方、社会福祉活動では、高齢者施設や障害者施設と小中学校・高校との福祉教育の交流は、支えあいや助け合いの心を育む機会になっている。森山老人福祉センターも高齢者や障害者のための交流の場としての大きな役割を果たしている。

【森山地区の良いところ】

- 小学生、中学生及び高校生の挨拶が心地よい。
- 小中学生の登下校時の見守り活動として登校ボランティア活動が地区毎に編成され継続的に取り組みが行われている。
- ネットワークあすなろは、日常生活では体験できない活動を通じて「自立・協調・健康・国際交流」を合言葉として、古民家を利用した「通学合宿」の生活体験塾を平成 12 年から始めて今日に至っている。
- 「花の会」は、町内の幹線道路沿いに季節の花を植栽し、公共施設には苗の頒布を行っている。1 年を通して町内には花が咲き、森山を訪れた人々に安らぎを与えている。作業には中学生の協力や地域住民が共に活動する姿がみられる。
- 各地区では、「鯉のぼり祭り」「郷土芸能の浮立、掛け打ち」、「精霊船づくり」など地域の 3 世代交流事業ともいうべき住民による伝統継承が行われている。

【森山地区の気になるところ】

- 地域にある商店は、諫早市中心部への大型店舗の進出によって、地域の商店が少なくなり、高齢者にとって食料品・生活用品の買物ができなくなった。また、地域の商店は、地域住民の語らいの場でもあったが、場所がなくなり高齢者の孤立化が否めない。
- 隣近所同士の情報の共有が希薄になり、実情の把握が難しくなっている。
- 少子化による子ども会会員減少により、地域行事が機能しなくなる。
- 高齢化の進行により自治会役員や老人会への加入が不足気味である。

Ⅱ. 森山地区社会福祉協議会の理念と重点目標

《森山地区社協の基本理念》

防減災まちあるき事業を通し 地域が共に支え合う町づくり

《森山地区社協の重点目標》

安心・安全の町づくり

- ◎重点目標1 高齢者等の出番と役割が発揮できる地域づくり
 - 「ふれあいいきいきサロン」の充実
 - 地域内での高齢者や障害者等の実情の把握に努め、誰もが住みやすい町に向けた取り組みを考えます
 - 地域の行事や伝統継承に世代間交流を通し、高齢者の知恵と支え合いの心を伝えます。

- ◎重点目標2 住民同士が支え合う地域の見回り活動
 - 高齢者等への時機に応じた支援体制づくり
 - 地域の危険箇所を互いに把握し、平時から支え合い活動を機能させ高齢者等の孤立化を防ぎ、問題を一人で抱え込むことがないように努めます。

- ◎重点目標3 災害時への構えづくり
 - 「防減災まちあるき事業」を積極的にすすめ、災害時の避難や要援護者への支援の在り方を住民参加型の実践を通して意識化を図る

Ⅲ. 森山地区に関する情報

1. 人口及び高齢化率

(単位:人、%)

	0~14	15~64	65~		合計	年少人口 割合	生産年齢 人口割合	老年人口 割合	75歳以上 割合
	①	②	③	うち75以上④					
男 性	321	1,284	730	291	2,335	13.7	55.0	31.3	12.5
女 性	275	1,361	1,022	577	2,658	10.3	51.2	38.4	21.7
合 計	596	2,645	1,752	868	4,993	11.9	53.0	35.1	17.4

(注) 諫早市住民基本台帳 (R3.4.1現在) 諫早市HPより作成

2. 森山地区社会福祉協議会の主な事業

(1) ふれあいいきいきサロン

(単位:回、人)

	サロン	開催場所	開催 回数	参加者	開催時間
1	けいしのいきいきサロン	森山町慶師野	12	17	13:30~15:00
2	なかよし会	" 本村	12	11	13:00~16:00
3	喜集会	" 本村	12	12	13:00~16:00
4	な釜会	" 田尻	23	12	09:30~11:30
5	さくら会	" 田尻	12	12	13:00~16:00
6	干拓いきいきサロン	" 田尻	12	9	13:30~16:30
7	平石サロン	" 田尻	12	15	14:00~16:30
8	小原木曜会サロン	" 唐比	24	8	10:00~15:00
9	唐比コスモスサロン	" 唐比	12	13	10:00~15:00
10	巡川公民館サロン	" 唐比	24	10	13:30~16:00
11	にこにこサークル (ゆびきりげんまん)	" 下井牟田	24	19	13:00~16:00
12	峰サロン	" 下井牟田	12	19	09:30~12:00
13	よろう会	" 下井牟田	12	21	09:00~12:00
14	駅前サロン	" 下井牟田	12	13	11:00~12:00
	合 計		215	191	

(注) 令和3年度活動計画より

(2) 子育てサロン

(単位：回、人)

	サロン	開催場所	開催回数	参加者	開催時間
1	おどぼーS	森山公民館	10	17	10:00~12:00

(注) 令和3年度活動計画より

(3) 主な事業 (令和3年度計画)

	事業	実施時期	対象者	備考
1	ひとり暮らし高齢者新米配付	8月	独居高齢者	70歳以上 約140人
2	金婚夫婦表彰	9月	金婚夫婦	
3	ふれあいグラウンドゴルフ大会	11月	老人会・子ども会	
4	防減災まちあるき事業	11月	唐比自治会	
5	ひとり暮らし高齢者もち配付	12月	独居高齢者	70歳以上 約140人
6	ひとり暮らし高齢者食事サービス	2月	独居高齢者	70歳以上 約140人
7	地域福祉セミナー	年4回	希望者	
8	社協だよりの発行	年4回	町内全世帯・関係機関配付	

《事業についての評価と課題》

- 金婚夫婦表彰：自治会からの申込みを受けて表彰を実施。好評である。
- グラウンドゴルフ大会
：児童数の減少により子ども会単独チーム編成が困難になってきた。
- 防減災まちあるき事業
：防災・減災の視点で地区住民の意識改革と高齢化への危機意識が生まれる。

3. 福祉協力員

- 成果・・複数の担当者で対応できるのでそれぞれの持ち味が発揮できる。
- 課題・・民生委員と協力員の関係性が、指示待ちになったり、自発性を発揮しづらいなどの声がある。

IV. 今 後 の 抱 負

～防滅災まちあるき活動の具体的な活動の推進～

高齢社会がますます深刻化するなかで、高齢者の出番や役割づくりの地域づくりがより重要になってくる。

そこで住民同士がお互いに支え学びあう地域づくりの中心に参加型の「防滅災まちあるき事業」をさらに推し進め、地域住民が積極的に参加し実践する「森山」を目指したい。

防滅災まちあるき事業は、平成 19 年度（2007 年）に長崎県社会福祉協議会が「防滅災を核とした認知高齢者等を支える小地域活動支援事業」を諫早市社会福祉協議会に委託し、諫早市社協が防滅災の地域活動のモデル地区として森山地区社協を指定したことから始まる。森山地区の 7 地区を毎年 1 地区ごとに巡り、該当地区を更に小集団に分け担当地区を指定している。該当地区の住民が自分たちの地区のこととして捉え、実際に地区を歩き、五感をフルに活用し「防災マップ」に情報を書き込み、自分たちに必要な「防災マップづくり」を体験している。今年度で活動開始以来 14 年目を迎え、各地区が 2 巡目に入っている。

当初より長崎ウエスレヤン大学の佐藤快信教授に指導を受けているが、今後は地域が組織的に活動できる環境づくりを目指し、各地区の「まちづくり」のなかに「防滅災まちあるき事業」を通して災害が発生したときの「問題や課題」に関心を持ち、ひとり一人が「まちづくりに何をなすべきか」を考える機会にしていきたい。

地域で 心Uki有喜と 支え合う まちづくり

有喜地区社会福祉協議会
地域福祉活動計画

計画期間：令和2年度～令和6年度

有喜地区社会福祉協議会

有喜地区に関する情報

●世帯数及び高齢化率

※令和3年4月1日現在

地区名	年齢層	男性	女性	合計	世帯数
有喜	15歳未満	166人	200人	366人	1,316 世帯
	15～64歳	1,002人	1,001人	2,003人	
	65歳以上	677人	949人	1,626人	
	合計	1,845人	2,150人	3,995人	
	高齢化率	36.7%	44.1%	40.7%	
	年少割合	9.0%	9.3%	9.2%	

有喜地区社会福祉協議会の主な事業

(新型コロナウイルス感染症対策のため事業内容を変更する場合があります。)

○ふれあいいいききサロン (実施箇所：7箇所)

対象区域	サロン名	主な開催場所	主な開催日	主な開催時間
松里町第一	松里町第一ふれあいいいききサロン	松里町第一公民館	第3火曜日	10:00～12:00
有喜町第一	有喜町第一いきいきサロン	白髪会館	第3水曜日	10:00～12:00
有喜町第二	有喜町第二ふれあいいいききサロン	有喜二町仮集会所 寿可ふじ	第2水曜日	10:00～12:00
有喜町第三	有喜町第三ふれあいいいききサロン	浮亀城公民館	第2・4金曜日	10:00～12:30
早見町	早見町いきいきサロン	早見町公民館	1日・15日	13:30～16:00
中通町	中通町ふれあいいいききサロン	中通町公民館	第4木曜日	10:00～13:00
天神町	天神町いきいきサロンみどり会	天神町ふれあいセンター	第4金曜日	13:30～15:30

○ひとり暮らし高齢者の集い (年1回開催)

○有喜地区敬老会 (年1回開催)

○ひとり暮らし老人給食サービス (年1回開催)

○「Uki うきお助け隊」(高齢者に対しごみ出しや電球の交換などを行う“生活支援ボランティア”)

○子育てサロン (実施箇所：1箇所)

対象区域	サロン名	主な開催場所	主な開催日	主な開催時間
有喜全町	ビヨビヨクラブ	有喜ふれあい会館	第2木曜日	10:00～12:00

○地区子ども教室 (実施箇所：1箇所)

対象区域	主な開催場所	主な開催日	主な開催時間
有喜小学校児童	有喜小学校教室、グラウンド	第1・3木曜日	14:00～16:00

○有喜地区ボランティアスクール (実施箇所：8箇所)

○有喜地区社会福祉協議会広報紙「有喜地区社協だより」発行 (年2回)

○福祉協力員 (設置人数：9人)

○図書ボランティア (登録人数：12人)

(出典) 令和3年度有喜地区社会福祉協議会事業計画書

今後の抱負

私たちの小中学校や地域の年中行事でも目に見えるようになってきた少子高齢化と核家族化、買い物や通院の交通手段など山積する課題を解決しなければなりません。

自治会を中心に、民生委員・児童委員、すべての団体や関係者が地域の課題を共有し、これまで以上に連携していくことで、地域が一つになればと願っています。

有喜地区の概要と現状

有喜地区の概要

有喜地区は、諫早市の南部に位置し橋湾に面し、国道251号線が通り海や山など自然が多く、漁業と農業が盛んな場所です。特別養護老人ホーム、介護老人保健施設などの高齢者施設や障害者入所施設など福祉施設が一定の場所に集約されており、施設と小中学校との交流も行われています。昔からの地縁や住民同士の連帯があり、住民同士の支え合いや助け合いが自然と行われている地区です。

地区の良いところ

- 元気がある高齢者が多い
- 近所の人や、高齢者世帯のごみ出しを手伝うなどの助け合いがある
- Uki・うきおたすけ隊があり、困った時には、助け合う取り組みができています
- 向こう三軒両隣で、どこも近所のつながりがある
- 乗り合いタクシーがあり、買い物や通院を支援する仕組みがある
- 小学生、中学生がよく挨拶する
- 子どもの非行が少ない
- ご近所同士で声を掛け合うことができています



地区の気になるところ

- 山道や道が狭いなど道路事情が悪く、高齢者が歩みにくい
- 災害時の避難がうまくできるか不安である
- ごみステーションの場所が遠いので、高齢者はごみ捨てに困る
- 子どもが海や山などの自然で遊ぶことをしなくなった
- 自治会の役員など活動の後継者がいない



有喜地区社協の基本理念と重点目標

有喜地区の基本理念 地域で心Uki有喜と支え合うまちづくり

重点目標

1

「高齢者が安心して頼れるまち」

- 高齢者の集う機会を増やし、生きがいを持って生活してもらえるよう、「ふれあいいいききサロン」の充実や「ひとり暮らし高齢者の集い」に取り組む
- 高齢者を支援するための「Ukiうきお助け隊」を充実させる
- ごみステーションの場所が遠く困っている方に対し、ごみ捨ての手伝いに取り組む
- 高齢者同士での語らいの場所としての老人会の活動を支援する



重点目標

2

「子ども達の元気な声が響くまち」

- 子どもと地域のつながりを作るため、子ども達の登校・下校を見守り、声かけ挨拶をする
- 「ボランティアスクール」に取り組み、子ども達に支え合う心を育む
 - 子ども同士や子どもと地域住民とのつながりを作るため、「地域子ども教室」を続ける
 - 若いお母さん達が知り合う機会を増やし、親子と地域の交流の場として「子育てサロン」を続ける



重点目標

3

「災害時でも安心、助け合うまち」

- 災害時の取り組みを協議する場を設け、災害時の避難や要援護者への支援のあり方を考える
- 地域の困りごと、必要なことを把握する



